



あたたかい心

校長 仲川 由佳理

今年は桜の開花が例年より遅くなりましたが、正門入口の桜が新入生の入学と、進級した子どもたちをお祝いするかのようには咲き誇っています。令和6年度は、83名の新1年生を迎え、児童数466名、職員40名でスタートしました。

さて、3月の卒業式では、卒業生は、朝は在校生に見送られ、式では来賓や保護者、教職員にたくさんの「おめでとう」の祝福を受けて巣立っていきました。とても立派で素敵な卒業式でした。ご臨席くださいました保護者様、ご来賓の皆様、ありがとうございました。

また、数日後、地域にあるフリースクールの卒業式にも参列させていただきました。人数や形式は異なりますが、校長先生（元さつきが丘小学校 校長 渡辺正彦先生）が卒業証書授与の際に一人ひとりにかかる言葉がとても印象的で、保護者や地域の方々から時折笑い声も聞かれる中、卒業生は立派に証書を受け取り、本当に温かな卒業式でした。改めて、人の心の温かさを実感し、言葉では言い表せない豊かな気持ちになって帰ってきました。

本校の卒業生が、「卒業を祝う会」で保護者へ向けて自分の好きな一文字を色紙に書いてスピーチしていました。あまりにも素敵だったので、自分も「心」という文字を記し、卒業式で伝えさせていただきました。「心」とは、形のないものですが、その人の言動に十分現れるものであると思います。心が満たされないと、平気で相手を傷つける言葉を発したり態度で表したりすることが見受けられます。もちろん、自分もそんな態度をとることが経験上ありました。この、「心が満たされない…」というのは私の主観かもしれませんが、この現象には、やはり人とのかかわり方が関係してくることと思います。認めてもらえない→褒められない→つまらない→満たされない/他人の弱み、気に入らないことを見つけて相手を困らせる→満たされる…こんな、冷たい人間関係作りではなく、誰かの役に立てた、力になれた、一緒に楽しい時を過ごした。一方で、誰かに助けてもらった、教えてもらった。「ありがとう」の言葉が行きかう環境の中で子どもたちを育てていきたいものです。



『物もちにならず、心もちになれ』と、私が父からもらった言葉が、教育現場で本当に意味のある事だと今頃になって思います。「学校が楽しい」と登校してくる子どもたちが、友達とあたたかい心で接しながら生活し、「また、明日ね!」となる学校を、職員一同、協働して築き上げてまいりたいと思います。どうぞ、今年度も、本校の教育活動に対するご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。